# Spotlight on the team.

## オールフランスラグビークラブ［東京都］

8月のはじめ。もうすぐ日本を離れるフランコとシナソンのために、SAYONARAパーティが開かれた。待ち合わせの19時45分をとうに過ぎても、まだまだ、全員がやってくる気配はない。でも、それを気にする様子もまったくない。試合にはほとんど顔を見せないメンバーやその友達まで、だいたい20人が揃ったところで会は始まった。

オールフランス・ラグビークラブ。その歩みは、9月に第6回大会が開幕するワールドカップとともにある。

1987年、第1回のワールドカップが開かれた時、六本木のパブでそれを観戦していた3人のフランス人と1人のニュージーランド人が「自分たちもやってみようか」と楕円球を手にしたのがクラブの始まり。そこに日本在住のフランス人や、他の国からやってきたビジネスマン、もちろん日本人も加わって、メンバーは増えたり減ったりを繰り返しながら、奇しくもフランスでワールドカップが開催される今年、20年目を迎えた。

現在、春は建設関連の企業を中心とした建設リーグに参加、秋は首都リーグで大会に出場している。練習は平日の夜。都内の大学のグラウンドを借りて、同じ首都リーグに所属するチームと一緒に汗を流す。

「試合で負けても、いつも勝ったみたいに騒いでる。ガイジンのチームは強いというイメージを日本人は持ってるけど、オールフランスはそんなことない（笑）。けれどラグビーと、仲間といることを楽しむ、ソーシャルな（社交を大切にする）クラブ」

早口なほどの日本語でチームを紹介してくれたのは、ニュージーランド出身のLOサイモン。来日して10年、現在は都内で弁護士として働く。

さまざまな国籍・職業・年齢のメンバーで構成されるが、やはり多いのはフランス大使館の駐在員や、母国に本社を持つ証券会社や銀行などの東京支社に勤めるフランス人。今年のチームをまとめるプレジデント、リヨン出身のPRマチュウは大使館員の1人だ。大学院生の時に来日、オールフランス歴は3年になる。

「ラグビーは高校生の時に始めた。でもオールフランスには初めての人もいる。だからラグビーのレベルはいらない。フランス語もいらない。英語、日本語でもコミュニケーションできるから」

ヒートアップするとみんな自国の言葉がつい口を突くから、試合中は3か国語が飛び交う。昨年のキャプテン、PRのアントワーヌも言う。

「試合中のコミュニケーションはミックス。でも大切な言葉は、『アレ・レ・ガ（レッツゴー）』と『オンソンブル（一緒に）』。それでスクラムは8人でも1つになる」

アントワーヌが勤めるのは、本国ではテニスの国際試合のスポンサー

9月には20周年記念の祝宴を開催する。「前にクラブにいた人、来たい人、みんな集まって」とサイモン。詳細はクラブHPで



文／早川亜耶子　写真／金城聖子

でもあるフランスの証券会社。オールフランスはユニフォームにロゴを入れることで、この企業から資金のサポートを受ける。そのため、いわゆる会費や入会金の類は必要としない。一クラブチームとしては恵まれた環境にあるといっていい。

「でも」とアントワーヌ。

「また2人減ってしまう。みんな来てください。誰でもウエルカム」

新旧のジャージーで。左端のグラハムは南ア出身。何度も帰国と来日を経験しているため、餞別のジャージーは「何枚も持ってる（笑）」

そんな嘆きが聞こえるように、長年の悩みはメンバーが安定しないこと。現在、試合に出られるプレーヤーは40名ほどいるが、外国人の多くが短ければ数年で帰国や転勤のため日本を離れる。この夏も、パティシエのフランコは母国に帰り、大使館員のシナソンは次の勤務地へ旅立つ。現在のメンバーに創立時を知る者はいない。

そんな心許なさをカバーしているのが来る者は拒まずの開かれた雰囲気と、このクラブを愛する日本人たちだ。

「もしもいなかったらオールフランスはとっくになくなっている」とチームメートが全幅の信頼を寄せるのが、流暢な英語を操る主務のコージ。日本語でのコミュニケーションが十分でないメンバーに代わって試合会場で、居酒屋で、渉外役を務める。

「他のクラブにも顔を出しているけど、ここの居心地の良さは特別。他にはないよ」と話すのは、もうすぐ50歳になるというユージさん。

「ここのヤツらは、ラグビーを楽しもうってことを教えてくれる。年齢なんて関係ないって心から言ってくれるよ。まだまだプレーできる。ここから世界が広がったんだ」

ラグビー王国出身のサイモンも、実は本格的にプレーするのは来日後が初めてだった。

「NZにいた時はプレーヤーになろうとは思わなかった。周りがみんな強そうだからね（笑）。日本に来て、友達をつくろうと思ってオールフランスに入った。NZでいつも試合を観てたからイメージではわかっているのに、全然できなくて、試合もボロ負け。でもチームの人は『いいパス投げたじゃん』って言ってくれた。いつも80分のうち1つだけでもいいことをしたら、みんなが褒めてくれる。なんだか悪いなぁって（笑）、次は頑張る。その繰り返し」

試合の予定などを知らせるメーリングリストには百人以上が登録されているが、「そのうち半分以上は、もう日本にいないメンバーですよ」とコージ。滞在した期間の長さに関わらず、日本を離れた今も、クラブとみんなの近況を知りたいからとメールを楽しみにする仲間は多い。試合には負けてばかりの愛すべきチームは、彼らにとっては『日本の想い出』ではない。彼らは今もクラブの一員なのだ。パーティの当日、フランスから「今日、フランコとシナソンのために、こちらで同じ時間に飲むよ」という返信が届いた。

SAYONARAの時は、日本代表のジャージーをプレゼントするのが、いつからか始まったオールフランス流のはなむけ。でもこの日、その贈呈式は行われなかった。

「買ったジャージーを持ってくるはずのビエールが、別の場所に飲みに行っちゃって。みんな、いつもこんな感じです」

コージは申し訳なさそうに、でもどこか愉しそうに笑った。

# Allez les gars!

＊フランス語で「Let's go!」の意味。発音は「アレ・レ・ガ」

**DATA FILE**
- 正式名称／ALL FRANCE RUGBY CLUB
- 創部／1987年　●練習グラウンド／上智大グラウンドなど
- チームHP／http://www.allfrance-rugby.com

試合後の1枚。マニラテンズやバンコクテンズへも参加しており、海外遠征は日本を離れた仲間との再会の場でもある

AFRC

外国人チームのYCACとは交流も深く年2回の定期戦を行う。写真は2003年の定期戦

渋谷で行われたSAYONARAパーティ。時間の経過とともに出席者はどんどん増殖

文／早川亜耶子　写真／金城聖子

でもあるフランスの証券会社。オールフランスはユニフォームにロゴを入れることで、この企業から資金のサポートを受ける。そのため、いわゆる会費や入会金の類は必要としない。一クラブチームとしては恵まれた環境にあるといっていい。

「でも」とアントワーヌ。

「また2人減ってしまう。みんな来てください。誰でもウエルカム」

そんな嘆きが聞こえるように、長年の悩みはメンバーが安定しないこと。現在、試合に出られるプレーヤーは40名ほどいるが、外国人の多くが短ければ数年で帰国や転勤のため日本を離れる。この夏も、パティシエのフランコは母国に帰り、大使館員のシナソンは次の勤務地へ旅立つ。現在のメンバーに創立時を知る者はいない。

新旧のジャージーで。左端のグラハムは南ア出身。何度も帰国と来日を経験しているため、餞別のジャージーは「何枚も持ってる（笑）」

そんな心許なさをカバーしているのが来る者は拒まずの開かれた雰囲気と、このクラブを愛する日本人たちだ。

「もしもいなかったらオールフランスはとっくになくなっている」とチームメートが全幅の信頼を寄せるのが、流暢な英語を操る主務のコージ。日本語でのコミュニケーションが十分でないメンバーに代わって試合会場で、居酒屋で、渉外役を務める。

「他のクラブにも顔を出しているけど、ここの居心地の良さは特別。他にはないよ」と話すのは、もうすぐ50歳になるというユージさん。

「ここのヤツらは、ラグビーを楽しもうってことを教えてくれる。年齢なんて関係ないって心から言ってくれるよ。まだまだプレーできる。ここから世界が広がったんだ」

ラグビー王国出身のサイモンも、実は本格的にプレーするのは来日後が初めてだった。

「NZにいた時はプレーヤーになろうとは思わなかった。周りがみんな強そうだからね（笑）。日本に来て、友達をつくろうと思ってオールフランスに入った。NZでいつも試合を観てたからイメージではわかっているのに、全然できなくて、試合もボロ負け。でもチームの人は『いいパス投げたじゃん』って言ってくれた。いつも80分のうち1つだけでもいいことをしたら、みんなが褒めてくれる。なんだか悪いなぁって（笑）、次は頑張る。その繰り返し」

試合の予定などを知らせるメーリングリストには百人以上が登録されているが、「そのうち半分以上は、もう日本にいないメンバーですよ」とコージ。滞在した期間の長さに関わらず、日本を離れた今も、クラブとみんなの近況を知りたいからとメールを楽しみにする仲間は多い。試合には負けてばかりの愛すべきチームは、彼らにとっては『日本の想い出』ではない。彼らは今もクラブの一員なのだ。パーティの当日、フランスから「今日、フランコとシナソンのために、こちらで同じ時間に飲むよ」という返信が届いた。

SAYONARAの時は、日本代表のジャージーをプレゼントするのが、いつからか始まったオールフランス流のはなむけ。でもこの日、その贈呈式は行われなかった。

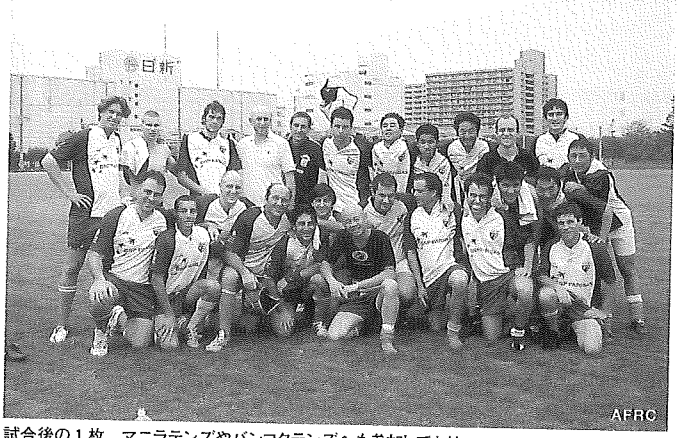
「買ったジャージーを持ってくるはずのピエールが、別の場所に飲みに行っちゃって。みんな、いつもこんな感じです」

コージは申し訳なさそうに、でもどこか愉しそうに笑った。

# Allez les gars!

＊フランス語で「Let's go!」の意味。発音は「アレ・レ・ガ」

**DATA FILE**
- 正式名称／ALL FRANCE RUGBY CLUB
- 創部／1987年　●練習グラウンド／上智大グラウンドなど
- チームHP／http://www.allfrance-rugby.com



試合後の1枚。マニラテンズやバンコクテンズへも参加しており、海外遠征は日本を離れた仲間との再会の場でもある

外国人チームのＹＣＡＣとは交流も深く年2回の定期戦を行う。写真は2003年の定期戦

渋谷で行われたＳＡＹＯＮＡＲＡパーティ。時間の経過とともに出席者はどんどん増殖